

RPJ News

2020年 1月号

特定非営利活動法人(NPO法人)

精神保健福祉交流促進協会 Refresh Project

〒130-0001 東京都墨田区吾妻橋2-17-7-801

毎月1回発行 E-mail ref-pj@mx5.ttcn.ne.jp

発行責任者：志井田美幸/ 長野敏宏/ 仁木守

連絡先 090-1811-7119

ホームページ <http://www2.ttcn.ne.jp/ref-pj/>

内 容

- * 新年あけましておめでとうございます
理事長 (公財)正光会 御荘診療所 長野 敏宏
- * もう少し歩みたい子の年です
理事 大分 寺町クリニック 太田 喜久子
- * ☆今年もよろしく願いいたします! ☆
理事 町にくらす会 志井田 美幸
- * 2020 年年頭のご挨拶
理事 埼玉県済生会なでしこメンタルクリニック 白石 弘巳
- * 新年あけましておめでとうございます
理事 (社福)ひつじ 理事長 藤田 安
- * 今年の抱負～令和初の新年を迎えて～
理事 出雲市役所 三島 武司
- * 意気込みはあるけれど・・・
監事 エスポアール出雲クリニック 高橋 幸男
- * 新年あけましておめでとうございます
監事 (公財)正光会 渡部 三郎
- * 新年のご挨拶
実行委員 NPO 法人むげん 藍田 寿弘
- * 新年のご挨拶
実行委員 (社福)ひつじ 大田 佳代
- * 新年あけましておめでとうございます
実行委員 青森県つがるねっと 代表 貴田岡 武
- * 新年のご挨拶
実行委員 尾道のぞみ会 橋本 周治
- * 新年あけましておめでとうございます
実行委員 エスポアール出雲クリニック 高尾 由美子
- * 新年のご挨拶
実行委員 (公財)正光会 中野 良治
- * 事務局からのお知らせ
○ 2020 年度役員会・実行委員会・総会開催のお知らせ

*** 新年あけましておめでとうございます**

理事長 (公財)正光会 御荘診療所 長野 敏宏

昨年は、仁木美知子前理事長の偲ぶ会、イタリアセミナー、また、帯広セミナーの記録の出版などお世話になりました。私自身もすべてに参加させていただくことができ、これまでの20年を振り返りながら将来を考えるととても大切な年になりました。お世話になった多くの方々に本当に感謝しています。

はっきりとイメージできはじめたのは「日本の精神保健医療福祉はまるごとどこかのモデルを目指すのではないこと」、また「決して目指すべき方向が見えない訳ではなことです。その具体的道筋はご本人はじめ、政策を創られる方々も含めた多くの実践者と創り上げていかなければなりません、いく筋もの光も見え始めているのではないかと思います。

その中で、協会が地道に取り組み続けたいいけないことはやはりありそうですので、皆さんと知恵と時間を出し合いながら、少しずつでも前に進んでいきたいと思っています。

今年もよろしく願いいたします。

*** もう少し歩みたい子の年です**

理事 大分 寺町クリニック 太田 喜久子

子としを迎えましたがあと少し頑張れたらと思う年です。昨年アフガニスタンで死去された中村哲先生は病苦を助ける前に生活を豊かにすることが大切と用水路を作る作業に生涯をささげられたのですが、精神の病も環境を整えれば社会で生活が出来ると思うことが多く、昨年から往診訪問を始めました。診察室の中から外に出て支援する治療の大切さを多機能型診療所研修会で示唆されたので出してみました。ある外来者の暮らしは見たことがないほどのゴミ屋敷で、尋常でないゴミの破棄に市から業者依頼を指導された程でした。言葉少ないが毎週受診し、傷病手当が切れる段階で何か見落としていて感じての訪問でした。いくら薬物療法を工夫しても生活が整っていない、会社出勤以前の問題が山積みしていたのです。来るのを待つ医療から出てゆく医療はしんどいのですが、出てこれない重い精神の病の方へ、出てゆく医療提供ができればと思う年の始まりです。



*** ☆今年もよろしく願いいたします！☆**

理事 町にくらす会 志井田 美幸

あけましておめでとうございます。

周りの流行に揺れることなく、地に足をつけた日々を過したいと思います。

今年一年が皆さまにとって素敵な年になりますように・・・。

今年もよろしく願いいたします。2020年 春

*** 2020年 年頭のご挨拶**

理事 埼玉県済生会なでしこメンタルクリニック 白石 弘巳

皆様、あけましておめでとうございます。

長野先生、仁木様はじめ協会の皆様には大変お世話になっております。年頭の挨拶をとのことですが、前理事長を偲ぶ会で多くの皆様にお目にかかってから、あっという間に半年経ってしまった気がします。こ

の間、めばしい協会活動をしておらず、「今やっていることを続けていきたい」くらいしか書くことがありません。

そこで、日々の暮らしの中で折に触れて意識している「向上門」と「向下門」について書かせていただき、責をふさぎたいと思います。これらは、勤務していた東洋大学の学祖・井上円了先生が重視された禅宗の教えです。改めてネットで検索すると、以下のように書いてありました。「人は皆生まれると、知らぬうちに向上門をくぐり、向上に励む。己とは何かを問いかけ、一步一步向上の道を上っていく。しかし、それは独りの道である。一人を究めんとする孤独の道。その道の先には向下門という門がある。それは自分が究めたことを世の人々に示せるか、どんな人にも分かる言葉で示せるかを試された門。この向下門を下り得た者のみが本当の意味での人生の合格者だ」(<https://ameblo.jp/onikko-nikki/entry-12000812261.htm>)。そして、引用したサイトは、「人生最期まで、学びと実践。自分自身、まだまだ究めるところまでも歩めていませんが、あせらず、くさらず、あきらめずに、『向上向下の道』を歩み続けていきたいと心から思っています」と結んでいました。いみじくも、これが、現在私が少しでも近づきたいと思っている心境です。

末尾ながら、本年が、皆様にとって良い年でありますよう、お祈り申し上げます。

* 新年あけましておめでとうございます

理事（社福）ひつじ 理事長 藤田 安

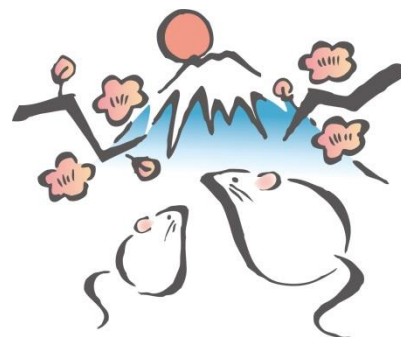
新年あけましておめでとうございます。

あつという間の一年が過ぎ、新しく手掛けた事業は軌道に乗りはじめ一息つきたい気持ちになっているところです。

そんな気分の中で新しい年を迎えました。まだまだイメージした世界には程遠いものがあります。

しかし、年々年を取ってさすがに頑張りが効かなくなっている昨今、出来ることを着実にやって行こうと思っています。

皆様の健康と活躍を祈念しています。今年もよろしく願い申し上げます。



* 今年の抱負～令和初の新年を迎えて～

理事 出雲市役所 三島 武司

みなさん明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

さて、思い起こせば昭和61年に奉職した市役所生活も残り4年余りとなりました。その間、様々な職場を経験しましたが、昨年4月から「子ども未来部」というところで、幼稚園・保育所から学童保育、児童虐待の防止・対応やひとり親支援などを所管しています。

久々の福祉職場に心を弾ませて着任したのですが、現場では、昨今ニュースなどをにぎわしている問題・課題が山積していました。保育所や学童保育に入れられないという保護者からの声、一方、教育・保育現場からの声は、人手不足で思うような活動ができない、手のかかる子どもの扱い方が分からないなど、枚挙にいとまがありません。

そんな中でも深刻なのは、やはり児童虐待の実態でした。その背景には、経済的困窮・DV・離婚・地域孤立などがある他、精神疾患・嗜癖依存なども大きな要因となっています。

昨年は、全国的に児童虐待の対応などをめぐって児童相談所が責められることが多かったように感じて

います。幸い出雲市では、テレビ報道されるような事案は発生しておりませんが、危ういケースは多く決して他人事ではありません。

児童虐待には様々な要因が複雑に絡み合っており、いくら児童相談所とはいえ、単体では十分な対応は困難です。そのため、多くの市町村では公的機関はもとより保育所や医療機関など民間団体も含めた要保護児童対策地域協議会(子どもを守る地域ネットワーク)を立ち上げています。

現段階でも出雲市の協議会は機能していると思っていますが、今年は連携をさらに拡大・強化できればと考えています。まずは、関係機関がそれぞれの「役割」と「限界」についても理解しあうことから始めたいと思います。

* 意気込みはあるけれど *

監事 エスポアール出雲クリニック 高橋 幸男

今年は7回目の年男で3月がきたら72歳になります。

70歳まで働くようにという国の動きは、人生100年時代を迎えて一見まともな話のようですが、年金制度がもたなくなっている現実を示しているのでしょう。そのことについての議論はさておき、当事者の人たちが自己実現のために就労したくなる雰囲気は間違いなく大きくなっていると思います。実際に精神障害者で仕事に就きたい人たちは格段に多くなっていますから精神障害のある人の就労支援は今後ますます重要になってくると思います。

そんな中で、出雲の“ふあっと”は、これまで就労支援に果たしてきた役割がとても小さく、確実に世間の動きに遅れをとっています。

当院も就労支援をしていますが、出雲的にはほとんど役立っていませんでした。

以前述べたかもしれませんが、当地では、3障害が一緒になった15、6年前から、地域移行・地域定着の方を“ふあっと”が担い、就労支援に関しては知的障害にかかわりを持った人たちに任せられた歴史があります。

そのために精神障害を持った人の就労支援について、これまでも支援の在り方に疑問を持たざるを得ないケースがあったのですが、最近になって問題が大きくなってきました。

具体的なことは話せませんが、でもひとこと不満を言わせてもらいます。

そもそも精神障害と知的障害は対応においての歴史が違います。知的障害はもともと教育を基本的な対応方法としていますが、精神障害のある人に教育的対抗はなじみません。当然ですが、上から目線での対応は当事者の不調を生み出しかねないのです。精神障害を持った人は不安定になりやすい、と現場的によく聞かされますが、支援の仕方によっては不調にされているのではないかとさえ思います。

そういうわけで、このまま放っておくわけにはいなくなりました。

結局、当地では当院が中心になって、大々的に就労支援を検討することになるだろうと思っています。今は検討中ですが来年には報告できるかと思っています。

それにしても、今さらながらではありますが、長野先生は偉大な方だと思います。

先生がされていることは、すべて世の中の動きを先取りしておられることだと痛感します。

私は昨年、生涯現役を宣言しました。これから少なくとも15年は頑張りたいと思っています。長野先生の意気込みを真似たいと思っていますが、少し歳をとりすぎたかもしれませんね。

本年もよろしく願いいたします。



* 新年あけましておめでとうございます。

監事 (公財)正光会 宇和島病院 渡部 三郎

新年あけましておめでとうございます。

暖かで穏やかな新春が、異常気象の延長にないことを願い、子年を迎えました。

私は次の子年までもう一巡りできるかはわかりませんが、脚と頭が動き続けるよう努力します。

場・仲間・縁・つながりを大切にして、みなさまと共に歩み続けていきたいと思えます。

今年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

* 新年のご挨拶

実行委員 NPO 法人むげん 藍田 寿弘

新年 明けましておめでとうございます。

協会の皆様方には、昨年東京でのセミナー「仁木美知子さんを偲んで」をはじめ、12月には「精神保健・医療・福祉を掘り下げるセミナー」十勝・帯広の本をお送りいただくなど、大変お世話になり、ありがとうございました。

この正月に、上記の「メンタルヘルスとウェルフェア第8号」を読ませていただくことができました。

長野理事長の「発刊に際して」は

「クランク勧告から半世紀50年が経過した。……脱施設化という視点においては根本的には全く進んでいないと言わざるを得ない状況に留まっている……。このような日本の状況の中で、二次医療圏全体で、地域生活支援の充実と「脱施設化」を着々と進めてきた唯一の地域が十勝・帯広である。…セミナーをまるごと書籍化し残そうと試みた。」

というものでしたが、今回は「誌上でのセミナーの再現」ではあっても、私にはその充実した研修がしっかりと伝わってきました。

繰り返し読み込んで、十勝・帯広の実践から学び、地元富山で、更に全国の様々な地域の実践にどう生し、結びつけることができるのか、関係の皆様と共に考えていきたいと深く思いました。

「もし役に立つ援助をすることを望むならば、援助者は対象者を人格をもつ人間、自分と同じような人間としての欲求をもつ人格として認めなければならない。人は人と共にあって成長するが、それは人間として尊重された関係においてのみ可能である。対象者の人格と主体性の尊重はケースワーカーのよってたつ基盤で、その上に立って、対象者を、ケースワーカーが望むあるべき姿ではなく、あるがままの姿で受け容れ、傷ついたり見失いかけている魂—自我—に自由な表現の機会を与え、表現された感情に理解、共感、あるいは支持を与え、また時によっては直ちに充足される必要のあるニードに答えて、傷ついた自我を癒し、見失しないかけた魂を取戻させ、自己の人格に気づき、自尊心をとり戻し、彼を悩ます問題に直面する勇気と、これを客観視する知恵をとり戻し、自ら決定して進む動機を発見するような、対象者自身の開発と前進を援けることこそが役立つものである。対象者が必要とするサービスや生活物資、医療等の活用に関し、また解決方針に関して、対象者が賢い選択をするに必要な資料を提供するのはケースワーカーの責務である。

個を対象とするケースワーカーが出会う問題の中には、多くの社会的レベルにおいて解決しなければな



らない問題がある。対象者の問題を顕微鏡を通してみるが如く身近に知ることができる立場にあるワーカーこそは、社会政策への強力な発言者でなければならない。社会福祉や社会保障の著しく立ち遅れている日本社会は、今、社会的、政治的感覚をもった、人間理解に徹したケースワーカーを数多く必要としている。」

長々と引用させていただいたのは、わが国においてソーシャルワーカーの母と言われた「浅賀ふさ先生」のケースヒストリーの要点(1971年)の前書き部分より抜粋・転記したものです。

私は実践の中で「人・金・物」の大切さをつくづく感じてきました。しかし、その中で最も大切なものは「人」であると考えてきました。

谷中さんの長年の実践を見ていると谷中さんという「人」が最初であり、その実践を通じて、資金や建物、つながり、制度ができてきたと思っています。

門屋さんは大学の先輩でもあり、日本精神医学ソーシャルワーカー協会(現日本精神保健福祉士協会)の活動や精神保健福祉士の国家資格化など大変お世話になってきました。

前文の引用は、門屋さんが浅賀先生の日本福祉大学における愛弟子の一人であったこともあります。

門屋さんのアイデンティティの基本には「ソーシャルワーカー」があります。今日では「マイクロ・メゾ・マクロの視点」と言われる様々な実践・実績を積み上げてこられたそのベースには浅賀先生から受け継がれた「ソーシャルワーカー魂」のようなものがあつたからではないかと思うからです。

全体討議の中で「妄想」という表現で将来への展望、希望を述べておられますが、今回のセミナーは歳月はかかったとしても、わが国における大きな変革における確かな道しるべとなり、十勝・帯広での実践は必ず伝わり、広がっていくと思っています。

セミナー開催にあたっての関係の方々のご努力と、それらをまとめ発行していただいたことに改めて敬意を表し感謝申し上げます。

今年もどうぞよろしくお願い致します。

追伸

昨年は富山県出身の八村塁の NBA ウィザーズへの入団や、朝乃山の活躍・関脇昇進に富山県民は心躍る日々を過ごし、今年の活躍にも大いに期待しているところです。



* 新年のご挨拶

実行委員 (社福)ひつじ 大田 佳代

あけましておめでとうございます。

2019年12月31日夕方、グループホームでかき揚げを揚げることに奮闘しておりました。思っていた以上に難しく、みんながそばを食べ終わった後にやっと完成。でもそんなタイミングの悪いかき揚げをみんなは優しく食べてくれました。その後、紅白歌合戦が終わりに近づいた頃「紅白見てる〜?」としばらくご無沙汰だった利用者さんから電話がありました。地に足がつかず、どこかに彷徨っているような日々を送り、うろろしたまま1年が終わってしまいそうだったところで、この年越しはうれしいひと時でした。自分がどこを彷徨っているのかわかるかもしれないと感じながら新しい年を迎えることができました。

本年もいろいろとお世話になることが多くなるかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

*** 新年あけましておめでとうございます**

実行委員 青森県つがるねっと 代表 貴田岡 武

みなさま、新年あけましておめでとうございます。

今年は例年に比べると雪も少なく過ごしやすい年末年始を過ごさせていただいております。

昨年もたくさんの方々を支えられてどうにかこうにか事業所も2年経過することができました。津軽塗という地元の伝統工芸品の商品開発やリンゴ農家さんとのつながり、少しずつではありますが地域振興に就労継続支援施設として関わらせていただいております。

また私事ではありますが、今年はおかげさまで4度目の年男を迎えることができました。3年目に向けてまだまだやれることを地道に、チュー意深くやさしく、つよく、おもしろがりながら進めていきたいと思っております。本年もみなさまよろしく願いいたします。

*** 新年のご挨拶**

実行委員 尾道のぞみ会 橋本 周治

「新年あけましておめでとうございます。」

新年の挨拶の定番であるが、昨今はなかなか言いづらいものがある。近年大災害が続いているからである。私たち広島もそうであるが、被災地の方々のことを思うと、新年とはいえお祝いの言葉は相応しくないように思えてならない。どのような言葉が適切なのか考えてみたが、私の貧困なボキャブラリーでは到底思い浮かばない。

被災地の1日も早い復興を願っているが、私自身は僅かばかりの寸志を被災地に寄附することぐらいしか今のところはできていない。長野さんや三島さんのような行動力のある人をとても尊敬している。

2019年は私にとっては公私共にともしんどい年であった。私の意図しないところで私の時間が第三者によって勝手に埋められていく…。そんな感覚に囚われるほど忙しい毎日であった。早朝から深夜まで駆けずり回り、過労死ラインを大幅に超えるほど働いた。

2020年は多少仕事をサボり、心にゆとりを持ちたい。そして事業に埋没することのないよう、マクロ的な視点を持って取り組みたい。特に私たちのような地方は人口流出が著しい。田舎だからこそできるものは何か？をずっと探し続けている。参考となるような取り組みをしている地域を学びに行き、ヒントを得たい。『学ぶ』は『真似る』が語源」と教わった。先進地の取り組みをとりあえず真似ることからスタートしていきたい。



*** 新年あけましておめでとうございます**

実行委員 エスポアール出雲クリニック 高尾 由美子

新年あけましておめでとうございます。

それぞれの新年を如何お迎えでしょうか？

私は、年末からおせちづくりに一生懸命でした。特別なことではないけれど、姑がやっていたことを思い返しながら黒豆、キンカン、栗きんとんは孫たちも喜ぶので多めに作りました。姑は脳出血、認知症もあっ

て今は作れませんが、多くの教えをもらったと思います。毎年の恒例を見聞きしながら学んでいくことは大切だなと感じています。長年の同居生活の中で、嫁姑問題はご多分に漏れず悩んだ時期もありましたが認知症の症状が進んでいく中でまさに「からくり」にはまっていたと思います。「からくり」をご存じない方もありますが、高橋院長が認知症になりゆく人の心の様子を説明するときに使っていますが、私たち夫婦は悪意があるわけでないけれど、職場も同じだったこともあって「あんたたちはいいね！」とよく言っていました。何となくのけ者にされた感じに受け取っていたのだと思います。新年になり見舞いに行ったとき、機嫌がよいと思っていたら「はあ、仲が良いことで！」と怒ってしまい、自分が邪魔者扱いにされているように解釈していました。一方で「お父さん」「お母さん」と言ってくれますが・・・

人に寄り添うことの大切さを実践しているつもりでも、相手がどう感じているかは確認までしていません。「双方向」に思ってもらえる関わりを丁寧にしていきたいと思っています。

今年もよろしくお願いいたします。

* 新年のご挨拶

実行委員（公財）正光会 中野 良治

新年あけましておめでとうございます。

昨年は仁木美知子前理事長を偲ぶ会が開催され、全国の多くの協会関係者の方々にご参加いただきました。美知子さんがどれほど丁寧に多くの人たちを紡いで下さったのか、懇親会を見渡しながらかつづく感じておりました。私たちも少しでも想いを引き継ぎながら前に進みたいと思います。

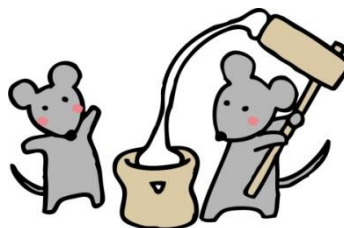
今年は、

仕事の部では、御荘では4月から新規事業（配食事業）も予定されています。

自分たちにとっても地域全体にとっても大切な事業ですので皆で頑張ります。

釣りの部では、磯釣りの聖地「御五神島（おいつかみじま）」へ釣行を重ね、スキルアップできればと。頭の中は御五神でいっぱいです。

本年も皆さんどうぞよろしくお願いいたします。



* 事務局からのお知らせ

○ 2020年度役員会・実行委員会・総会開催のお知らせ

日時 2020年4月5日(日)13:30~16:30

場所 ハロー貸会議室新橋 F

港区新橋 2-16-1 ニュー新橋ビル 8階

ー編集後記ー 平成から令和に代わり始めての新年です。昨年はイタリアセミナーとリフレッシュセミナー in 東京を実施させていただき、そして年末ぎりぎりになりましたが 2018 年に行ったリフレッシュセミナー in 十勝・帯広の記録を「メンタルヘルスとウエルフェア第 8 号」として発刊させていただきました。さて今年は何を・・・となりますが、これからの企画は 4 月に開催する総会で決めていくこととなります。こんな事を考えている。こんな事がやりたい！等ご意見を是非お聞かせください。ご参加お待ちしております。(仁木守)

特定非営利活動法人 精神保健福祉交流促進協会 TEL090-1811-7119